

## 十日町地域広域事務組合消防のあゆみ

昭和 47 年

4 月 20 日 十日町地域広域事務組合設立許可(県知事)  
(十日町市、川西町、津南町、中里村の4市町  
村で、と畜場、福祉センター事務共同処理)

4 月 24 日 十日町地域広域市町村圏協議会の事業とし  
て、昭和 48 年4月1日を目標に、一部事務組  
合方式で広域消防を実施することになり、広域  
市町村圏振興整備計画決定

10 月 11 日 広域消防に関する消防本部・署設置義務政令  
指定申請書を県を通じて自治省に提出

昭和 48 年

4 月 1 日 十日町地域広域事務組合規約変更県知事許  
可により既設十日町市消防本部・署を廃止し、  
組合消防本部・署ならびに消防団4団を設置  
1本部 1 署職員 49 人、4団 団員 3,237 人  
機械施設等は十日町市消防本部・署ならびに  
各市町村消防団の施設を引き継ぎ広域消防  
業務を開始  
警防課へ救急係を新設

4 月 5 日 自治省告示第 74 号により、川西町、津南町、  
中里村に消防本部・署、設置義務に関する政  
令指定

9 月 1 日 消防職員 16 人採用増員(総員 65 人)

10 月 1 日 川西分遣所ならびに津南分遣所業務開始、  
職員各9人  
川西分遣所にニッサンFH60 型消防ポンプ自  
動車購入配置

10 月 23 日 県単補助事業によりトヨタコンピューター  
RH18V救急車購入消防署に配置

10 月 25 日 津南分遣所にニッサンFH60 型消防ポンプ自  
動車購入配置

11 月 1 日 日本自動車工業会からトヨタコンピューター  
RH18V救急車の寄贈を受け川西分遣所に  
配置

11 月 9 日 川西分遣所庁舎竣工

11 月 20 日 津南分遣所庁舎竣工

昭和 49 年

5 月 1 日 職員4人採用、分遣所各 11 人(総員 69 人)

6 月 1 日 総務課庶務消防団係を庶務係及び消防団係  
へ分割  
予防課を新設し、警防課予防係及び救急係を  
予防課へ移管

6 月 29 日 自治省告示第 131 号により、川西町、津南  
町、中里村救急業務に関する政令指定

10 月 4 日 十日町地域消防本部・署庁舎竣工

10 月 14 日 消防本部にC型緊急指令装置及び構内電話  
交換設備設置工事完了

10 月 26 日 マツダルーチェバンデラックス指令車の寄贈  
を受け川西分遣所に配置

昭和 50 年

5 月 1 日 職員4人採用、分遣所各 13 人(1人退職、  
総員 72 人)

6 月 1 日 津南分遣所に日赤トヨタコンピューター  
RH18V救急車配置

昭和 51 年

1 月 31 日 県単補助事業により泡放射砲 MFN-2000VA  
購入本署に配置

3 月 20 日 中里村消防団車庫兼詰所竣工

6 月 16 日 十日町市消防後援会から軽自動車の寄贈を  
受け連絡車として本署に配置

昭和 52 年

2 月 28 日 ニッサンパトロール FH60 型ドア付消防車購  
入本署に配置

4 月 1 日 職員1人採用(3人退職、総員 70 人)  
総務課へ中里詰所を新設

6 月 14 日 本署日赤救急車更新(ニッサンシビルアン)

昭和 53 年

4 月 1 日 職員6人採用(退職3人、総員 73 人)  
予防課救急係を警防課へ移管

昭和 54 年

3 月 28 日 救助工作車(ニッサンディーゼル)購入  
本署に配置

4 月 1 日 職員3人採用津南分遣所 15 人(総員 76 人)

7 月 30 日 津南分遣所指令車更新(トヨペットクラウン)

昭和 55 年

3 月 28 日 消防本部に救急医療情報システム端末設備  
設置(県委託)

4 月 1 日 通信救急課及び通信係を新設  
救急係を警防課から通信救急課へ移管

5 月 19 日 中里村に消防連絡車配置  
(ニッサンブルーバード E-910)

5 月 31 日 1人退職(総員 75 人)

6月1日 職員1人採用(総員76人)

6月9日 日赤からニッサンシビリアンⅢB型救急車川西分遣所に配置

7月15日 本署に指令車配置(トヨペットクラウン)

8月1日 新潟県消防学校へ教官派遣1人(4か月)

10月5日 日本損害保険協会からトヨタランドクルーザーFJ-56型の寄贈を受け本署に配置

昭和56年

4月1日 職員3人採用(1人退職、総員78人)

8月1日 川西分遣所2人増員(15人)

9月3日 本署に連絡車配置(スズキジムニー)

昭和57年

3月3日 十日町地域消防本部・津南町消防団が消防庁長官から竿頭綬を受章

4月1日 職員1人採用(1人退職、総員78人)

6月11日 本署に気象観測収録装置設置

7月23日 本署日赤救急車更新(ニッサンシビリアン)

11月17日 津南町消防団が水防功労により北陸地区治水会から表彰される

12月14日 本署連絡車更新(スバルレックス)

昭和58年

4月1日 職員1人採用(1人退職、総員78人)

5月14日 本署指揮連絡車更新(スバルレオーネ)

6月1日 十日町市消防団が災害の発生防止、復旧事業促進の功により、全国防災協会から表彰される

6月5日 十日町市消防団が水防功労により、信濃川・魚野川水防連絡会から表彰される

8月2日 津南分遣所日赤救急車更新(ニッサンキャラバン)

9月9日 川西分遣所指揮連絡車更新(ニッサンダットサン)

12月9日 本署訓練塔建設工事竣工

昭和59年

1月14日 本署化学車を更新、本署の化学車津南分遣所へ配置換え

2月10日 中里村消防団、日本消防協会から表彰旗を受章

3月25日 広域事務組合発足10周年記念式典挙行

4月1日 職員1人採用(1人退職、総員78人)

4月18日 職員1人退職(総員77人)

5月31日 川西分遣所指揮連絡車更新(ニッサンダットサン)

11月6日 津南分遣所消防ポンプ自動車更新(ニッサンサファリア-2級)

12月17日 中里村消防団、消防庁長官から災害現場功労表彰を受章

昭和60年

2月8日 十日町市消防団、日本消防協会から竿頭綬を受章

4月1日 職員4人採用(総員81人)  
地域消防史編纂プロジェクトチーム編成  
総務課中里詰所を廃止し、中里消防係を新設

9月1日 中里村消防団が災害現場功労により内閣総理大臣から表彰される

9月2日 川西分遣所消防ポンプ自動車更新(イスズエルフA-2級)

昭和61年

4月1日 職員3人採用(3人退職、総員81人)

8月7日 川西分遣所日赤救急車更新(イスズファーゴ4WD)

11月9日 職員1人退職(総員80人)

12月10日 職員1人採用(総員81人)

昭和62年

1月1日 本署に救助分隊を編成

4月1日 通信救急課を廃止し、警防課へ通信係及び救急係を統合

8月3日 本署日赤救急車更新(トヨタ4WD)

10月14日 本署泡放射砲積載車更新(三菱キャンター4WD)

昭和63年

8月7日 第39回新潟県消防大会を十日町市で開催(ポンプ車操法の部で十日町市消防団優勝)

8月26日 日本消防協会から指令広報車(三菱ランサーバンDX)の寄贈を受け津南分遣所に配置  
日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車(トヨタハイエース)の寄贈を受け川西町消防団に配置

10月12日 第11回全国消防操法大会(於横浜市)十日町市消防団第16分団がポンプ車操法に出場

平成元年

3月20日 本署屈折はしご付消防ポンプ自動車更新(30m級はしご付消防自動車、東急メッツDL30h型)

4月1日 職員4人採用(4人退職、総員81人)

予防課へ危険物係を新設  
新潟県消防学校へ教官派遣1人(6か月)

7月28日 本署指令1号車更新(ニッサングロリア)

8月20日 第40回新潟県消防大会(於朝日村)  
小型ポンプ操法の部で中里村消防団優勝

12月10日 本署訓練塔補強増設

12月22日 本署消防ポンプ自動車2号車更新  
(三菱キャンター4WD A-2級)

平成 2年

2月14日 川西町消防団が日本消防協会から表彰旗を受章

3月20日 緊急指令装置Ⅱ型更新(NEC)

4月 1日 職員1人採用(1人退職、総員 81人)

6月30日 職員1人退職(総員 80人)

9月 7日 津南分遣所救急車更新  
(ニッサンホームミー4WD)

12月20日 緊急情報システム、無線統制台設置

12月27日 本署消防ポンプ自動車3号車更新  
(三菱キャンター4WD A-2級)

平成 3年

2月28日 職員1人退職(総員 79人)

3月 6日 中里村消防団消防庁長官から竿頭綬を受章

4月 1日 職員5人採用(1人退職、総員 83人)

8月 1日 職員1人採用(総員 84人)

平成 4年

3月25日 本署救助工作車更新  
(救助工作車Ⅱ型 三菱ふそう 8t級)

4月 1日 職員3人採用(2人退職、総員 85人)

6月15日 中里詰所連絡車更新(スバルレガシー4WD)

12月29日 十日町市消防団本部分団に資器材搬送車  
配置(ダイハツハイゼット4WD)

平成 5年

3月25日 津南分遣所消防ポンプ自動車更新  
(三菱キャンター4WD A-2級)

4月 1日 職員4人採用(総員 89人)  
完全週休二日制及び週 40 時間勤務実施  
消防署及び分遣所の勤務を三交替制とし試行  
開始  
総務課へ文書広報係を新設  
警防課へ訓練救助係を新設

6月 4日 本署指令2号車更新(スズキエスクード)

8月 5日 川西分遣所日赤救急車更新  
(トヨタハイエース4WD)

8月25日 川西分遣所指揮連絡車更新  
(トヨタランドクルーザー4WD)

9月 1日 十日町地域広域事務組合 20 周年記念事業  
として組合章、組合旗、マスコットマークを制定

10月 1日 十日町地域広域事務組合発足 20 周年記念事  
業として記念誌「鎮」発行

平成 6年

4月 1日 職員1人採用(2人退職、総員 88人)

5月31日 職員1人退職(総員 87人)

7月28日 本署救急1号車更新  
(トヨタアンビュランス4WD)

8月 1日 職員2人採用(総員 89人)

8月26日 本署連絡2号車更新(三菱ミニキャブ4WD)

9月30日 川西分遣所庁舎増改築工事竣工

10月27日 本署訓練場造成工事竣工

平成 7年

3月 3日 川西町消防団消防庁長官から竿頭綬を受章

4月 1日 職員1人採用(1人退職、総員 89人)

11月 1日 職員1人採用(総員 90人)

12月25日 本署連絡1号車更新(ニッサンホームミー)

平成 8年

2月14日 本署化学車更新  
(化学車Ⅱ型 イスズフォワード4WD)

4月 1日 職員3人採用(3人退職、総員 90人)  
家畜指導診療所が組合へ編入  
組合総務課事業係を廃止

8月13日 職員1人退職(総員 89人)

12月 1日 職員1人採用(総員 90人)

平成 9年

3月24日 津南分遣所を津南町卯ノ木地内に新築移転、  
竣工

4月 1日 国のモデル広域指定を受け、本部・署の組織  
を一部変更し、東頸城郡松代・松之山両町の  
消防事務を十日町地域広域事務組合で共同  
処理することとなり、1市4町1村で構成する新  
たな広域消防業務を開始  
上越地域消防事務組合から東頸消防署松代  
分遣所・松之山分遣所の施設、車両等の譲渡  
を受け、名称を「十日町地域消防署松代分遣  
所」・「同 松之山分遣所」として編入

津南分遣所は中里詰所との機能統合を図り、「十日町地域消防署南分署」とし、川西分遣所は「西分署」と改称した	平成12年	
新たに職員23人を採用(うち派遣職員5人)	1月17日	松之山分遣所消防車更新 (三菱キャンターCD-1型4WD)
松代・松之山両町消防団の機械施設等を引き継ぎ、消防団2団を編入1本部 1署 2分署 2分遣所	4月1日	職員6人採用(6人退職、総員113人) 組合総務課と畜場を閉場
職員113人 6消防団 団員3,156人 上越地域消防事務組合から譲渡された車両 <松代分遣所>	6月1日	十日町大火100周年記念総合防災訓練及び「消防史」発行
消防車 (イスズエルフ250スーパー)	7月19日	本署指令1号車更新 (ニッサンセドリック4WD)
救急車 (トヨタハイエース)	8月21日	西分署日赤救急車更新 (トヨタグランビアII-B型4WD)
指揮連絡車 (スズキジムニー)	平成13年	
<松之山分遣所>	4月1日	職員4人採用(3人退職、総員114人) 新潟県消防防災航空隊へ1人派遣(2年間) 警防課へ通信指令室を設置
消防車 (ニッサンサファリ)	7月18日	松代分遣所消防車更新 (日野CD-1型4WD)
救急車 (トヨタハイエース)	7月26日	本署救急2号車更新 (トヨタグランビアII-B型4WD)
指揮連絡車 (スズキエブリー)	8月22日	南分署指令1号車更新 (ニッサンウイングロード4WD)
総務課庶務消防団係及び中里消防係を廃止し、庶務係及び消防団係を新設	平成14年	
9月1日 新潟県・十日町市総合防災訓練を十日町市で開催	4月1日	職員4人採用(4人退職、総員114人)
9月8日 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け南分署に配置 (ニッサンディーゼルI-B型 A-1級)	8月1日	職員1人採用(1人退職、総員114人)
平成10年	平成15年	
1月25日 西分署消防車更新 (ニッサンディーゼルA-2級)	2月7日	十日町市消防団、日本消防協会から特別表彰「まとい」受賞
3月31日 日本自動車工業会から高規格救急車の寄贈を受け本署に配置(HIMEDIC型 VCH38S)	4月1日	職員1人採用(1人退職、総員114人) 新潟県消防防災航空隊1人派遣解除
4月1日 職員7人採用 (2人退職、5人帰属、総員113人)	平成16年	
11月26日 南分署救急車更新 (トヨタアンビュランスII-B型 4WD)	2月1日	十日町地域広域事務組合発足30周年記念事業として記念誌「鎮」発行
平成11年	2月26日	十日町地域メディカルコントロール協議会設立
4月1日 職員2人採用(2人退職、総員113人)	4月1日	職員2人採用(3人退職、総員113人) 新潟県消防学校へ教官派遣1人(2年間)
6月11日 十日町ライオンズクラブから赤バイ2台寄贈を受け本署に配置(ヤマハセロー225)	7月13日	平成16年7月新潟・福島豪雨 新潟県消防相互応援協定に基づく出動要請 災害派遣人員37人(三条市ほか)
6月30日 松代分遣所査察広報車更新 (ニッサンウイングロード4WD)		
12月16日 松代分遣所救急車更新 (トヨタグランビアII-B型 4WD)		



10月23日	新潟県中越大震災 午後5時56分中越地方を最大震度7の激震が襲う。(十日町地域管内では最大震度6強)断続的に余震が続き、同年12月28日までの間に有感地震は877回を数えた。 ▼消防本部震災体制 消防計画における地震第二次配備体制自動発令 消防本部震災指揮本部の設置 本署79人、西分署12人、南分署8人、松代分遣所6人、松之山分遣所6人の体制で、交替で休憩をとりながら24時間勤務 10月29日17時から12月17日17時まで順次勤務体制を変更して非常体制を継続し、その後通常体制に移行 ▼災害発生状況(10月23日～10月31日) 火災件数 十日町市 2件 救助件数 十日町市 4件、松代町1件 救急件数 267件	平成18年 1月6日 豪雪により災害救助法が適用(十日町市、津南町) 1月12日 平成18年豪雪の各地最高積雪 2m77cm(消防本部) 3m13cm(十日町試験地) 3m62cm(津南町役場) 4m42cm(松之山支所) 4月1日 職員3人採用(職員3人退職 総員115人) 新潟県消防学校へ教官派遣1人解除 予防課へ査察指導係を新設 警防課通信指令室を総務課へ移管 警防課救急救助係を廃止し、救急係及び救助装備係を新設 4月10日 職員1人採用(1人退職、総員115人) 10月1日 十日町市消防団女性部発足(入団14人) 12月19日 本署消防1号更新(緊急消防援助隊仕様)(日野CD-I型4WD)
平成17年		平成19年
2月12日	19年ぶりの豪雪 最高積雪 2m76cm	4月1日 職員3人採用(3人退職、総員115人) 組合企画振興課を廃止し、総務課へ企画振興係を新設 総合福祉センターを津南町へ移管
4月1日	5市町村が合併し、新十日町市誕生(十日町市、川西町、中里村、松代町、松之山町)合併に伴い、旧市町村消防団を統合し、十日町市消防団5方面隊体制とした 職員7人採用(5人退職、総員115人) 総務課文書広報係を廃止 警防課警防係、機械係、救急係及び訓練救助係を廃止し、警防装備係、救急救助係及び訓練指導係を新設	4月6日 新潟県消防職員意見発表会(於:佐渡市)で最優秀賞を受賞 7月16日 新潟県中越沖地震 午前10時13分上中越沖を震源とするM6.8の地震が襲う 柏崎地域を中心に甚大な被害が発生(十日町地域管内最大震度5強)
5月20日	高機能消防指令センター(II型)運用開始	▼震災警防本部の設置 新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請 救助工作車、ポンプ車、タンク車、高規格救急車、高発砲車にて出動 10日間で、16隊、延べ63人が活動にあたる。
6月28日	松代地域集中豪雨(252mm/日)	▼災害出動状況(7月16日発災当日) 消防署 19台 108人 消防団 48台 175人
7月28日	松之山分遣所日赤救急車更新(トヨタグランビアII-B型4WD)	11月29日 本署救急1号更新(緊急消防援助隊仕様、高規格救急車 トヨタハイエース CBF-TRH226S)
8月12日	十日町ロータリークラブから救急訓練人形7体寄贈を受ける 集中豪雨(津南町、松之山地区)12～15日	
8月15日	松之山天水越地内土砂崩れ災害	
10月25日	樽沢集落1年ぶりに避難指示解除	
10月28日	本署に指揮車(マツダボンゴ)を配置	
11月28日	日本損害保険協会から高規格救急車の寄贈を受け南分署に配置 (トヨタHIMEDIC型 VCH38S)	

平成 20 年		4 月 15 日	本署救急2号更新 (緊急消防援助隊仕様、高規格救急車トヨタハイエース CBF-TRH226S)
2 月 12 日	十日町市消防団十日町方面隊本部分団第2部1班の「防火幕」の歴史に幕多目的災害対応班へ	8 月 25 日	総務省消防庁から多目的防災活動車の貸与を受け、十日町市消防団十日町方面隊本部分団へ配置
2 月 29 日	十日町市消防団が日本消防協会から防災活動車の寄贈を受け、十日町連絡3とし、本署に配置(ダイハツハイゼット)	10 月 28 日	松之山分遣所救急車更新 (緊急消防援助隊仕様、高規格救急車トヨタハイエース CBF-TRH226S)
3 月 21 日	十日町市消防団十日町方面隊本部分団のポンプ自動車を更新(日野 CD- I 型4WD)	平成 23 年	
4 月 1 日	職員8人採用(8人退職、総員 115 人) 警防課警防施設係及び救助装備係を統合し、警防係を新設 警防課訓練指導係を廃止し、救助係を新設	1 月	豪雪により災害救助法が適用 (十日町市、津南町) 平成 23 年豪雪の各地最高積雪
7 月 1 日	平成 19 年度退職者から十日町地域消防本部・署旗の寄贈を受ける	1 月 31 日	3m10cm(津南町役場)
8 月 3 日	第 59 回新潟県消防大会を十日町市で開催	2 月 1 日	2m52cm(消防本部) 2m90cm(十日町試験地)
10 月 27 日	十日町地域広域事務組合と新潟県立十日町病院との救急現場における救急業務に関する協定書締結		3m69cm(松之山支所)
平成 21 年		3 月 11 日	東北地方太平洋沖地震 午後2時 46 分宮城県沖を震源とする M9.0 の地震発生 東北地方を中心に甚大な被害が発生 新潟県緊急消防援助隊として、救急隊3人、救急支援隊2人が宮城県石巻市に出動 第8次隊、第 10 次隊、第 13 次隊にわたり延べ 17 人を派遣 十日町病院 DMAT チーム(医師1人、看護師1人、連絡調整員1人)の搬送として、連絡1号車にて隊員2人が福島医大へ出動 福島県内の入院患者を新潟県内の医療機関へ搬送するため新潟県相互応援協定に基づき新潟県消防学校で患者を引継ぎ県内病院へ搬送(3月 19～20 日)
2 月 5 日	本署消防2号更新(緊急消防援助隊仕様)(日野 CD- II 型4WD CAFS搭載)		
3 月 23 日	消防団協力事業所表示制度を導入(認定事業所表示証交付式開催)	3 月 12 日	長野県北部地震 午前3時 59 分、長野県北部を震源とする M6.7 の地震発生 十日町市中里・松代・松之山、津南町で震度6弱を観測し、同地区を中心に大きな被害を生じる ▼災害出動状況 火災1件、救急救助7件、調査 55 件
4 月 1 日	職員6人採用(職員5人退職 総員 116 人) 津南町消防団女性部発足(入団 10 人) 総務課通信指令室を警防課へ移管 総務課へ企画広報係を新設 警防課救助係を廃止し、消防署防災救助係を新設		
9 月 20 日	消防ひろばが 20 回を迎える		
11 月 24 日	西分署日赤救急車更新(高規格救急車)(トヨタハイエース CBF-TRH226S)		
12 月 10 日	高発砲車を廃車し、資機材搬送車を本署に配置(日野レンジャー 4WD)		
平成 22 年			
4 月 1 日	職員5人採用(職員5人退職、総員 116 人) 新潟県消防学校へ教官派遣1人(2年間) 消防本部へ消防庁舎建設準備室及び企画事業係を新設		

4月 1日	職員3人採用(職員5人退職 総員 114 人) 松代・松之山分遣所を統合し、十日町市松之山小谷地内に「しぶみ分署」を開署し、業務を開始する。分署長・副分署長・当直各5人体制 警防課救急係を廃止し、救急管理係を新設 消防署へ救急救助課及び救急指導係を新設 総務課庶務係及び企画広報係を廃止し、庶務広報係を新設	5月 24日	南魚沼市欠之上地内 八箇峠トンネル爆発事故 新潟県消防相互応援協定に基づく出動要請 災害派遣人員 34 人	
7月 27日	平成 23 年新潟・福島豪雨 降り始めからの累計雨量 (7月 27日 15:00～30日 15:00) 中心市街地(地域振興局) 493 mm 市内最大雨量(八箇峠) 565 mm 1時間の最大雨量 中心市街地(地域振興局) 120 mm(29日 20時～21時) 市内最大時間雨量(小泉) 121 mm(29日 19時 50分～20時 50分) 出動状況(7月 28日～8月 2日) 消防本部・署の災害出動 82 件 消防本部・署の出動延人員 415 人 消防団の出動延人員 2,057 人	12月 7日	本署救助工作車更新 (緊急消防援助隊仕様、日野レンジャーSDG-GX7JGAA 改)	
11月 9日	東日本大震災において、現場での救急救助活動などの功績により、総務大臣表彰を受賞	平成 25 年	1月	豪雪により災害救助法が適用(十日町市) 豪雪により災害救助法が適用(津南町) 平成 25 年豪雪の各地最高積雪
11月 25日	平成 23 年新潟・福島豪雨に際し、水防活動の功績により、国土交通大臣表彰を受賞(十日町市消防団)	2月 22日	2m54cm(消防本部) 3m88cm(松之山支所)	
11月 26日	本署指揮連絡1号更新 (トヨタハイエース CBF-TRH228B)	2月 25日	2m89cm(十日町試験地)	
平成 24 年		2月 26日	3m06cm(津南町役場)	
1月	豪雪により災害救助法が適用(十日町市)	4月 1日	職員3人採用(職員3人退職、総員 114 人)	
2月	豪雪により災害救助法が適用(津南町) 平成 24 年豪雪の各地最高積雪	5月 31日	職員1人退職(総員 113 人)	
2月 11日	2m90cm(消防本部) 3m02cm(十日町試験地) 3m29cm(津南町役場) 4m17cm(松之山支所)	7月 1日	職員1人採用(総員 114 人)	
4月 1日	新潟県消防学校へ教官派遣1人解除 職員4人採用(職員4人退職、総員 114 人)	9月 1日	新潟県・十日町市総合防災訓練を十日町市で開催	
		10月 28日	十日町地域広域事務組合発足 40 周年記念事業として講演会開催及び記念誌「鎮」を発行	
		平成 26 年		
		4月 1日	職員4人採用(職員2人退職、総員 116 人) 南分署3人増員(20 人) 西分署3人減員(13 人) 消防庁舎建設準備室を消防庁舎建設事業室へ変更	
		11月 14日	消防救急デジタル無線局舎、堀之内城山地内に竣工	
		平成 27 年		
		4月 1日	職員5人採用(職員6人退職、総員 115 人) 新潟県消防防災航空隊へ1人派遣(3年間)	
		10月 31日	新消防本部庁舎、四日町新田地内に竣工	
		平成 28 年		
		1月 29日	本署化学車更新 (緊急消防援助隊仕様、日野レンジャーSDG-GX7JGAA 改)	
		3月 31日	川治内後地内消防本部及び霜条地内西分署を閉庁 総務課消防庁舎建設事業室を廃止	

- 4月 1日 新消防本部庁舎運用開始(四日町新田地内)  
職員2人採用(職員1人退職、総員 116人)  
消防救急無線のデジタル化運用開始  
総務課庶務広報係を廃止し、庶務係及び企画広報係を新設  
警防課救急管理係を廃止し、警防課救急室及び救急係を新設  
消防署救急救助課及び救急指導係を廃止
- 5月 2日 十日町地域救急ステーション運用開始  
(県立十日町病院内)